コード No. 10201

Anti-Human
MDMX (77A1) Mouse IgG MoAb

容量 : 100 µg

はじめに : MDM2 の類似タンパク質である MDMX は、その構造がアミノ酸 1 つの違いによりリング構造がうまく構築されず、ユビキチンリガーゼ活性を持たないと言われています。 その機能は未だ明らかとはされていませんが、MDM2 タンパク質に対してドミナントネガティブな制御を担っていると考えられています。

免疫抗原 : Human MDMX のリコンビナントタンパク質

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ (培養上清)
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 : 77A1 サブクラス : IgG_1

精製方法 : Protein A による特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2～8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : ウエスタン･ブロッティング 1 µg/mL にて使用可能
: 免疫組織染色は未検定

参考文献 :
1. Shvarts A, Steegenga WT, Riteco N, van Laar T, Dekker P, Bazuine M, van Ham RC, van der Houven van Oordt W, Hateboer G, van der Eb AJ, Jochemsen AG. MDMX: a novel p53-binding protein with some functional properties of MDM2. EMBO J. 1996 Oct 1;15(19):5349-57.
2. Jackson MW, Berberich SJ. MdmX protects p53 from Mdm2-mediated degradation. Mol Cell Biol. 2000 Feb;20(3):1001-7.

株式会社 免疫生物研究所
〒375-0005 群馬県藤岡市中 1091-1
電話：0274-22-2889 FAX：0274-23-6055
E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp
URL: http://www.ibl-japan.co.jp